

伊賀東照宮崇敬会報

第 7 号

発行所
伊賀東照宮社務所
三重県伊賀市老川1103-2
TEL 0595-55-2512

ご挨拶

宮司 稲葉 喜代子

令和七年の夏は炎威の日々の影響により、楓の木の色はいつもより遅く、十一月中旬頃より色づき始める境内に、参拝者がお守り

と葉にと楓の葉拾う姿あり。

当宮では、龍神様のご出現が、令和五年より話題となり配信され大勢の参拝者が訪れていただき目には見えないお姿が、スマートフォンに捉え映し出されて参拝者皆様方が、それぞれに感想を配信いただいています。

令和五年は、どうする家康の大河ドラマ放映に伴い、限定朱印授与が北から南からと大変な好評をいただき、七年の年も次々と龍神様ご出現に際し、龍神・葵版の限定朱印授与に現在も大勢のご参拝をいただき、良い年となりました。

当宮に於きましては、いよいよ令和九年四月には日光東照宮殿より御分霊鎮座五十年祭を迎えることとなりました。

今日まで、お支えいただきました、歴代会長・役員・敬神婦人会・多くの崇敬者の皆様の熱心なご崇敬とご奉仕とお力添えを頂きましたことに、感謝と御礼申し上げます。

何卒、御崇敬者各位のお力添えを更に賜りまして、御造営記念事

業を遂行出来ますよう重ねてお願い申し上げます。

結びに、日光東照宮殿より御分霊鎮座齋行を昭和五十二年四月十六日浄暗の中、御奉仕いただきましたより、令和九年に五十年祭を迎えることとなりました。

今日まで賜りましたご神意・ご高配ご鞭撻お支えいただきましたことは当宮の誉と強固な糧となり、感謝を代々に伝えられていくことを願いながらここに日光東照宮殿

はもとより、現宮司稲葉久雄殿の絶大なるご尽力ご支援を賜りましたことに、深甚なる敬意を表しますと共に心より厚く御礼申し上げます。



令和九年に日光東照宮殿より御分霊鎮座五十年祭を迎える御造営

令和の記念事業計画の遂行報告

第一期工事

神殿の床改築・授与所 兼 社務所老朽化改築・付帯工事等

第二期工事

トイレ・（及び多目的トイレ）既存建物の改築
森林伐採

第三期工事

井戸水・水道に切り替え・禊場改築（風呂場）
会館及び社宅
白蟻駆除
エアコン二台購入（三十年経過不具合の為）
事務機入替・会館玄関前生コンクリート打設・配線

※ 但し 第一期の 神殿の床工事が 未着手

伊賀東照宮由緒

日光東照宮殿より御分霊鎮座祭に至るまでの由緒

昭和44年7月7日午前2時

天御中主大神天降り突如、坂野つなへ（創始者）名古屋の地に、神懸する。

天照坐皇大神とご相談され日光東照宮御祭神徳川家康公に白羽の矢が立つ。

天御中主大神、家康公に老川へ行く事を告げられる、大層悩まれるがそれじゃ行きましよう、と申された

7月13日夕刻

生誕地三重県名賀郡青山町老川へ帰るその夜

7月14日午前2時

東照大権現（徳川家康公）啓示により、光り輝く中降臨。

7月31日

日光へ行けとの啓示有り、午前8時に老川を出発との啓示、生まれて初めて日光東照宮へ参拝。現宮司稲葉久雄氏と最初に出会う、今日までの神事を話し祈禱を受ける。

8月より

実家にて教義を広める。兵庫県在住の従弟藤原明氏より住居奉獻の話し有り

9月より

最初の住まいを奉獻受け、工事

が始まる。

12月

荒壁の状態で、住まいし、教義を始め、完成は年明けて45年

昭和49年4月17日

初めて日光東照宮より特使をお迎えし、例祭を盛大に斎行。

昭和50年 夏

信者の中から神殿の建立をとの声有り、住居より500メートル東の段々稲田の土地が授かり境内地の造成に入る。

秋

造成された境内地に、三尺四方の仮神殿を建てお祀する。

冬

信者より木の調達設置工事の奉仕作業により、見事な木の大鳥居が奉獻される。

4月17日

新境内に天幕を張って日光東照宮より特使稲葉久雄氏（当時部長）随員

青山隆生氏、奉仕により例祭が盛大に斎行される。

4月18日

稲葉久雄氏帰省の際、伊州老川東照大権現の社名を伊賀東照宮と命名。（社名の誕生）

4月

例祭斎行後、信者より神殿建設委員会発足、次々に浄財が奉獻される。

昭和51年9月8日

神殿工事着工

10月

神殿上棟祭

昭和52年3月

神殿並びに手水舎完工

崇敬者奉獻

4月16日

日光東照宮より御分霊鎮座祭午後7時浄暗の中社宅より新神殿へ遷御

4月17日

神殿竣工奉告祭・御分霊鎮座奉告祭・例祭・あわせて盛大且厳肅に斎行

昭和54年6月15日

宗教法人法に依る三重県知事の認証受ける（名義代表役員当時祭主創始者） 以上

【由緒はこれより現在まで続きます】

（注）御分霊鎮座までに八年間を要するその間、数多の人達に随神教義の道を広められ、その後も神上がりますその日まで生涯神明奉仕に邁進された。その後数多の崇敬者の浄財にて顕彰碑が平成29年3月に建立された。

第63回伊勢神宮式年遷宮へ向けて諸祭事始まり

四季折々めぐる季節の中で、毎年神社のおまつりがおこなわれますが、中には式年という一定の年を定め、続けられてきたお祭りもあります。

昨年伊勢の式年遷宮が令和6年4月8日に天皇陛下の御聴許を賜り、令和15年秋に執り行われることになりました。

令和15年に神さまが新宮に遷られる「遷御」を迎えるまで、神社関係者を始め数多の国民がご奉賛のまごころを寄せ第63回御遷宮が執り行われますようお願い、日々つとめてまいりたいと存じます。

尚、7年6月に御樋代木奉曳式に、支部80名が参加。皆が身が引き締まるとともに有難いご奉仕でした。



トピックス

夢はオリンピック

当宮の舞姫姉妹・いとこ3名 祭儀に一年生より御奉仕

伊賀市立青山小学校に通う姉妹といとこの3人が、舞とレスリングという異なる舞台で輝いている。伊賀東照宮（同市老川）では神事の舞姫を務め、レスリングでは全国大会でそろって銅メダルを獲得した。

3人は、5年生の村川麻生さん（10）、3年生で妹の星月さん（9）といとこの岩橋ユリアさん（8）で、いずれも同市桐ヶ丘在住。姉妹は2年半前から、ユリアさんは1年半前からレスリングに挑んでいる。

村川さん姉妹の挑戦は「強くなりたい」「筋肉をつけたい」との思いがきっかけで、2人の背中に憧れてユリアさんも続いた。

通うのは、五輪3連覇の吉田沙保里さんの実家が運営する「一志ジュニアレスリング教室」（津市）。1日2時間、ほぼ毎日練習を重ねる。得意技は麻生さんが「首投げ」、星月さんが「がぶり」、ユリアさんが「タックル」と三者三様だ。大会前は、体重管理にも気を配っている。麻生さんは今年1月、星月さんとユリアさんは7月の全国大会で3位入り。「うれしいけど、次は優勝したい」と、3人の視線は既に次の舞台をとらえている。試合後には互いにアドバイスを送り合い、勝利への道を探る。

3人の目標は全国優勝し、そしてオリンピックの舞台に立つこと。憧



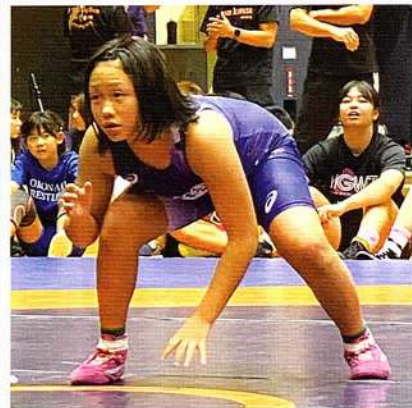
れるのは吉田さんと、パリ五輪金メダリストの藤波朱理さん、世界選手権で金メダルを獲得した村山春菜さんだ。

一方で、3人は伊賀東照宮の舞姫も務める。華やかな着物に花飾りをつけ、扇や鈴を手に約15分間舞う姿は、参拝者を魅了する。奉納は年4回で、次は10月17日（金）の新穀感謝祭に臨む。

最初は緊張した舞も、今では「楽しい」と言えるようになった。人前で堂々と披露する舞は、レスリングで鍛えた強い足腰が支えている。

将来の夢は、レスリングの先生、警察官、救急救命士など、それぞれ

れ思いを語る。舞とレスリングの二つの舞台で磨いた体と心で、3人は前へ進む。



写真は左から星月さん、ユリアさん、麻生さん。

（この記事は伊賀タウン情報ユー 2025年9月27日 Vol.900 9月後半号より転載させて頂きました。）

七色の龍神様

当宮に ご参拝の方が撮影されました 七色の光をまとった 龍神様で
日本の文化や伝統において 神秘的で 特別の意味を持つ存在!! と言われており
虹の美しさは エネルギーの流れを象徴し 天と地とを結び付ける存在とされています
精神的な 成長 変化 調和 変容 悟り 幸運 豊かさ 守護 そして願望の実現を
もたらす!と信じられており…

五龍神(青龍 赤龍 白龍 黒龍 金龍)の五龍神の力を統合し 商業
的な成功や 金運 健康 目標達成
恋愛運 その力強い存在は 運気を
高め人生を豊かにする!!と言われて
います…

特に日本では(東の青龍)(南の赤
龍)(西の白龍)(北の黒龍)(中央の
金龍)と言う配置 方位や 様々な
ご利益をもたらす とされています



七色龍神様
出現
パワースポット

龍神限定御朱印授与



YouTube 配信中!



伊賀東照宮


伊賀東照宮

〒518-0219 三重県伊賀市老川1103-2
TEL 0595-55-2512 FAX 0595-55-2918
<http://www.iga-toushougu.com/>



昭和五十二年四月に日光東照宮殿より御分霊鎮座齋行を浄暗の中御奉仕いただきましてより、令和九年に五十年祭を控えて、今日まで賜りましたご神意 ご厚配ご鞭撻 お支えただいてまいりました事は、当宮の誉となり代々に伝えられていくことを願いながらここに、日光東照宮宮司 稲葉久雄殿に深甚なる敬意を表しますと共に、心より厚く御礼申し上げます。

結びに